

作成 令和4年12月22日

摂津市議会議員 松本暁彦

令和4年第4回定例会一般質問

～本会議3日目・令和4年12月20日～ 議事録(抜粋)

4 子どもの居場所づくりの強化について

質疑概要

地方自治体としても、少子化対策の取組み、特に子育て支援策の強化が必要とされる中、保護者ニーズが高い経済的援助、医療体制、居場所の中で、本市での子どもの居場所について、現状と取組の必要性について質疑を行った。

○松本議員

4 子どもの居場所づくりの強化について、本市での子どもの居場所に関して、市の取り組みについて現状と考え方についてお聞かせ下さい。

(略※)

○福住議長

次世代育成部長

○次世代育成部長

続きまして、子どもの居場所についての本市の現状と考え方についてのご質問にお答えいたします。

子どもの居場所は、明確な定義はございませんが、子どもが安全で安心して過ごすことができるとともに、人とのつながりや生活・学習習慣づくりや様々な体験の機会を通じて子どもの自己肯定感や自己有用感を育んだり、貧困や孤独・孤立の解消、コミュニティの再生などの役割を担うことができるものと考えております。

本市では、わくわく広場、児童センター、学童保育、子ども食堂、また、コミュニティーセンターや公民館等の公共施設も子どもの居場所となりうると考えており、子どもを支援する NPO 法人や民間団体などでは、多世代が交流する場所など多様な居場所づくりにも取り組まれております。

また、全国的にも、子どもの見守りの視点を中心とした居場所づくりや、NPO 法人やボランティア団体などが学習を支援する「無料学習塾等の学習支援教室」、遊びの場を提供する「プレーパーク」など、子どもの居場所づくりの取り組みが広がっております。

それらの取り組みを推進するため、子どもの居場所の設置・運営に対する支援に取り組まれている

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]

自治体も増加しており、本市においても、本年度から子ども食堂を運営されている団体への支援として、運営に関わる経費等の補助を行っているところでございます。

(略※)

○松本議員

次に子どもの居場所づくりについて、市の子どもの居場所づくりの状況は理解しました。

子育て支援策強化の一つとして、保護者からのニーズの高い居場所づくりは、重要な取組みであり、更に力を入れるべき政策です。

それを踏まえ、子どもの居場所づくりの課題についてどうお考えかお聞かせ下さい。

○福住議長

次世代育成部長

○次世代育成部長

子どもの居場所づくりには、場所とその運営に係る人材の確保が必要となります。

子どもの居場所を長く継続的に運営していくためには、NPO 法人や地域の団体等に担っていただくことが大事であると考えており、それらの関係団体の理解と協力が不可欠であります。

しかしながら、子どもの居場所は、地域の方が善意で始めた活動であることも多いため、資金面、人材のネットワーク等に課題を抱えていることも多いことから、市として、経済的な支援とともに、子どもの居場所づくりに関わりたいという人材や地域団体が増えるよう、その育成支援に取り組む必要があると考えています。

子どもたちの家庭環境等に応じた様々な居場所があることで、子どもたちが心身の健康維持し、社会で生き抜く力を得る機会となるなど、その成長を下支えするとともに保護者の安心感等にもつながるものと考えております。

○福住議長

松本議員。

○松本議員

NPO法人や地域の団体等への課題等は理解しました。

公的な居場所では、就学前・保育施設の充実も求められます。先ほどの嶋野議員や三好としのり議員でもあったように、旧三宅スポーツセンターや旧味舌小学校跡地の利活用を是非とも検討すること、そして学童保育の更なるサービス向上を要望致します。

また、地域との連携・支援もしっかりと進められることも合わせて要望致します。

(音声データ等より作成)

重要と思われる部分には強調を入れています。

※当該質問に関係のない他の質問項目の部分は省略しています。

<一般質問・項目一覧>

- 1 増加する救急出動数や火葬件数等と超過死等の状況について
- 2 新型コロナワクチン接種
 - (1) 副反応による健康被害と情報提供について
 - (2) 制度開始から過去最多の健康被害認定と救済制度申請への支援について
 - (3) 乳幼児接種等への希望申請制について
- 3 加速する少子化に対する子育て支援策強化の必要性について
- 4 子どもの居場所づくりの強化について**
- 5 児童虐待防止での保護者ケアの重要性について
- 6 マスク着用の弊害と黙食等の小中学校の対応について

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]